

発な研究活動によって当社は過去10年間に12の化合物を新規登録し、日本においてははじめてのアゾール系殺菌剤、バイレトン、バイコラルをはじめ1986年には当社にとって最初の水田除草剤、ヒノクロアおよびザーク粒剤をはじめとする混合剤の上市に成功し現在、いわゆるワンショット除草剤として高い評価を得ている。又、これらの新規登録化合物の中には特農独自の合成による5化合物も含まれ、水稻モンガレ病、およびリゾクトニア菌に著効を示す殺菌剤モンセレン、同じ燐剤であり乍ら燐剤抵抗性昆虫に有効な殺虫剤トクチオン、ボルスタール等は日本のみならず世界各国に販売されている。

当社における研究開発の組織は研究本部と開発本部にわかれ、前者には合成、製剤、環境科学、安全性評価および特許の各部が属し、後者

には各種スクリーニング、および基礎的研究を主体とする生物基礎研究部と圃場試験を主体とする生物応用研究部、技術部の各部が属しており両本部のスタッフ部門としての研究管理部が全研究活動の管理調整に当り、必要に応じ各部門の研究者からなるプロジェクトチームを編成し迅速な研究開発の遂行をはかっている。

農業は厳しい状況に直面している。しかしながら、ルネッサンス以降急激に増えつづけている世界の人口の食糧を確保することが出来たのはひとえに農業技術の進歩によるものであり、その一環としての農業もまた人間のみに与えられた英知の結晶であることを思うとき困難ではあろうとも私達は今後とも世界のすべての人々により豊かな生活をもたらすため一層の力を尽したいと願っている。

植調第23巻編集委員会 2月14日植調会議室に、野口勝可、芝山秀次郎、杉山浩（以上農研センター）、平田良樹（野菜茶試）、市原正幸（石原産業）、杉山弘成（クミアイ化学）、小林寛治（三共）（敬称略）、本会から吉沢会長他関係者出席して開催した。

各委員らより予め提案された、除草剤・生育調節剤に関するテーマ、執筆予定者を、全般、水稻、畑作物、野菜・花き、果樹その他永年作物、非農耕地に大別して、慎重検討の結果、23巻の編集大綱と素案を策定し執筆を依頼することにした。本年は、当協会創立25周年の意義深いふしめであり、正に平成元年を充実と発展の契機として、新たなるスタートが期待されている。そこで、「植調」誌の編集に当たっても、巻頭言の充実（1/2頁を1頁に改訂）、25周年記

念の特集（的）取材と編纂、発刊日の繰上げ、民間研究所めぐりにつづいて、国立・公立試験研究機関の現状紹介等、25周年にふさわしい誌面の刷新と内容の飛躍的発展を期している。読者各位の格別の御支援と忌憚のない御批判をお願いし、御投稿を乞うしだいである。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03)832-4188(代)

平成元年3月発行

植調第22巻第12号

定価400円(送料170円)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)833-1821番(代)